

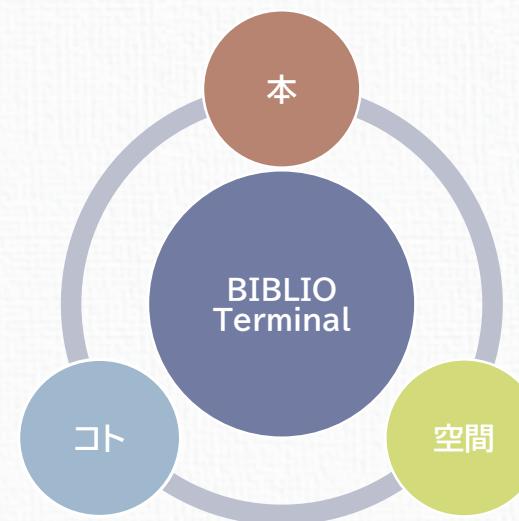
# 機能・活動の背景となる考え方

「BOOKWARE」(ブックウェア)  
本を中心に、生き生きとした場が生まれる



**本の新しい可能性** 「BOOKWARE」とは、外側からやってくる情報と自分の中の欲求や動機づけ、自分の内外にあるあらゆるものを「本」を軸にして結びつけ、世界を見ていく編集的な方法です。

「BIBLIO Terminal」(仮)  
様々な人と本が行き交いつながることで  
新たな体験を生む本棚空間



- 本** 知の構成を「世界知」「日常知」「共読知」の三つで構造化し、それぞれの「知」を文脈的に体系化して示します。
- 空間** 本を通じた、成長、多様性、つながりを、枝葉の広がる大きな「木」(World Tree)をモチーフにした本棚で構成します。
- コト** 本や空間を用いて、人と人のつながりや地域を知るイベント、ワークショップを企画・実施していきます。

「本」「空間」「コト」それぞれが関連し、本から得られる創発や、人と人とのふれあい・つながりを生み出します。

## 編集工学研究所によるBOOKWAREの活動事例

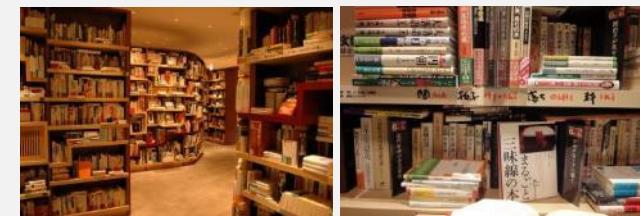
### 近畿大学(大学図書館)

1階「NOAH33(ノア33)」は、新しい知の分類を構築し、近大独自のインデックスを設計。2階「DONDEN(ドンデン)」は、マンガと新書と文庫のみで構成し、漫画の世界から読書へ誘う試みを実施。



### 松丸本舗(書店)

本がコンテクスチュアルにつながる「文脈棚」を展開。棚板にはリコメンドフレーズを書き込むなど既存の書店の枠を超える棚づくりを実現。



### 帝京大学(大学図書館)

読書を共に楽しむ「共読」をコンセプトに、リコメンドを書き込める黒板本棚を配置し、学生が主体的にコミュニケーションする仕掛けを展開。



### THE BASICS FUKUOKA(ホテルライブラリー)

ロビーに円形に配置した書架の「内周棚」には日本の文化や繊細な四季をテーマにした書物を、「外周棚」にはその方角にあたる大陸・国・地域の書物を取り揃え、知的好奇心を加速する新しい体験を誘う棚づくりを展開。

